

鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター一年報  
(第6号)

2012 年版

' 12 ANNUAL REPORTS  
TOTTORI UNIVERSITY AVIAN ZOOONOSIS RESEARCH CENTER



鳥取大学農学部  
附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター  
AVIAN ZOOONOSIS RESEARCH CENTER  
(AZRC)

## 目 次

1. ご挨拶	1
2. 人員構成と各研究部門における研究内容	2
(1) 病態学研究部門	2
(2) 疾病管理学研究部門	2
(3) 分子疫学研究部門	3
3. 研究活動	5
(1) 病態学研究部門	5
著 書	5
原著論文	5
学会発表	6
(2) 疾病管理学研究部門	7
著 書	7
原著論文	7
総 説	8
学会発表	9
(3) 分子疫学研究部門	10
原著論文	10
総 説	11
学会発表	11
4. 学術賞等の受賞	12
5. その他の研究活動	12
(1) 国際共同研究・共同調査	12
6. 広報活動	12
(1) 講演等	12
(2) 新聞雑誌等掲載	14
7. 社会貢献	15

## 1. ご挨拶

センター長 伊藤 壽啓

本学に設立された農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センターも今年で8年目を迎え、目標である「鳥類から人に感染する感染症対策の確立」、特に「高病原性鳥インフルエンザの撲滅」を目指して、スタッフ一同、日夜調査研究に取り組んでおります。

2010年11月から2011年3月にかけて、これまでに類を見ない大規模な高病原性鳥インフルエンザの国内発生が、養鶏場のみならず、野生鳥類にも広がりました。発生県をはじめ、農林水産省および関連団体等の不断の努力によって、我が国は本病の清浄化に成功し、幸いにもそれ以降現在まで(2012年12月)、その清浄性を維持しております。しかしながら、ひとたび目を海外に投ずれば、わが国と関連の深いアジア諸国(中国、香港、台湾、ベトナム、インドネシア、インド、バングラデッシュ、ネパール、ブータンなど)を中心に次々と新たな発生が報告され、国内の静けさが決して安堵できるものではないことが伺えます。

当センターでは、その前回の国内発生とくに野鳥における本病流行を受けて、文部科学省科学技術戦略推進費事業の一環として、高病原性鳥インフルエンザウイルスに対する各種野鳥の感受性研究を開始致しました。また、本年度から養鶏場への本ウイルス運搬者としての野鼠のリスク評価についても、農林水産省レギュラトリーサイエンス事業として研究を推進しております。

周辺諸国に今尚、ウイルスの供給源が存在する限り、我が国はそのウイルスの国内侵入に対する警戒を緩める訳にはいきません。国内唯一の鳥類感染症の専門機関としてこれからも鳥由来人獣共通感染症の撲滅に向け、スタッフ一同尚一層精進してまいりたいと存じます。引き続き関係の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 2. 人員構成と各研究部門における研究内容

### (1) 病態学研究部門

- ・野鳥の生息状況・飛翔路調査
- ・野鳥の病原体保有状況調査
- ・異種動物間伝播機序の研究

#### 教授 山口 剛士（平成19年6月1日着任～現在）

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」(海外研究拠点を活用した新規研究課題)における研究課題「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」に参加している。人獣共通感染症の伝播と拡散における野生鳥類の果たす役割について研究を行っている。

#### 特任教授 小野 悦郎（平成17年4月～平成19年3月専任教授、平成19年4月～現在）

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」(海外研究拠点を活用した新規研究課題)における研究課題「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」に業務主任者として参加している。また、鳥インフルエンザ抵抗性動物の開発研究を行っている。

#### 講師 笛吹 達史（平成20年4月着任～平成22年3月助教、平成22年4月～現在）

インフルエンザウイルスについて、ウイルス感染動物における免疫誘導機構、鳥種・動物種による病原性の違いに関わる宿主要因をテーマに研究を行っている。鳥類から哺乳類への伝播機序の解明を目指す。また、ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測に参加。

### (2) 疾病管理学研究部門

- ・病原性獲得変異の研究
- ・病原微生物の感受性研究
- ・新規抗微生物活性物質の研究

#### 教授 村瀬 敏之（平成17年4月～平成18年3月助教、平成18年4月～現在）

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」(海外研究拠点を活用した新規研究課題)における研究課題「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」に

分担研究者として参加している。また、鶏卵鶏肉を汚染するサルモネラの生態、病原性および薬剤感受性に関する調査研究を行っている。

**准教授 尾崎 弘一**（平成19年7月着任～平成24年12月助教、平成25年1月～現在）

高病原性鳥インフルエンザウイルスに対するワクチン開発を行っている。また、ウイルスタンパクに対する抗体を応用して CNT バイオセンサーの開発、広範囲なウイルス増殖抑制活性を持つ抗体の探索とその応用、分子レベルでの抑制メカニズムを追っている。

**特任教授 大槻 公一**（平成17年4月～平成18年3月教授、センター長、平成18年4月～現在）

「新興・再興感染症に関する海外研究拠点形成プログラム」(文部科学省)により長崎大学熱帯医学研究所がベトナムに形成した拠点において、研究協力者として、同国の野鳥の鳥インフルエンザウイルス汚染状況を調査している。また、抗ウイルス性を持つ新素材「加工ドロマイト」の開発研究を行っている。

### (3)分子疫学研究部門

- ・分子疫学情報のデータベース化
- ・遺伝情報交換ネットワークの構築

**教授 伊藤 壽啓**（平成17年4月～現在、平成18年4月～現在、センター長）

鳥由来人獣共通感染症としての鳥インフルエンザを主な研究対象として、人の新型インフルエンザウイルス出現予測のための宿主域制限因子の解明や、国内に飛来する渡り鳥を中心とした野鳥のウイルス保有状況調査、野生水禽由来インフルエンザウイルスの鶏に対する病原性獲得機構の解明等の研究を実施している。

**准教授 伊藤 啓史**（平成17年4月～現在）

鳥インフルエンザウイルスおよびニューカッスル病ウイルスの宿主域、病原性に関する研究を行っている。また、各種機関や企業との連携、共同研究により野鳥の鳥インフルエンザウイルス保有状況の調査や抗鳥インフルエンザウイルス素材、製品に関する研究を行っている。

**専任助教 曾田 公輔**（平成23年6月着任～現在）

高病原性鳥インフルエンザウイルスの各種野鳥および家禽に対する病原性とその疫学的意義を明らかにすると共に、インフルエンザウイルスの宿主である水禽からニワトリに

ウイルスが伝播するために関与する分子基盤の解明を試みている。また、ベトナムの家禽における鳥インフルエンザウイルスサーベイランスを継続的に行っている。

(平成25年3月31日現在)

### 3. 研究活動

#### (1) 病態学研究部門

##### 著 書

- 1) 山口剛士: 第4章 6 鶏の管理衛生. *獣医衛生学*, 第2版, pp233-243, 岩田祐介, 押田敏雄, 酒井健夫, 高井伸二, 局博一, 永幡肇 編, 文永堂出版, 東京, 2012年.
- 2) 山口剛士: 第7章 ウイルス・細菌. *獣医学・応用動物科学系学生のための野生動物学*, pp143-146, 村田浩一, 坪田敏男 編, 文永堂出版, 東京, 2013年

##### 原著論文

- 1) Uno Y, Usui T, Fujimoto Y, Ito T, and Yamaguchi T: Quantification of interferon, interleukin, and Toll-like receptor 7 mRNA in quail splenocytes using real-time PCR. *Poult Sci*, 91, 2496-501, 2012.
- 2) Kasanga CJ, Yamaguchi T, Munang'andu HM, Wambura PN, Ohya K, and Fukushi H: Genomic sequence of infectious bursal disease virus from Zambia suggests evidence for genome re-assortment in nature. *Onderstepoort J Vet Res*, 79, E1, 2012.
- 3) Fukushi H, Yamaguchi T, and Yamada S: Complete genome sequence of equine herpesvirus type 9. *J Virol*, 86, 13822, 2012.
- 4) Masuda Y, Matsuda A, Usui, T, Sugai, T, Asano A, and Yamano Y: Biological effects of chicken type III interferon on expression of interferon-stimulated genes in chicken: comparison with type I and type II interferons. *J Vet Med Sci*, (IF=0.876), 74: 1381-1386, 2012.
- 5) Kasanga CJ, Yamaguchi T, Munang'andu HM, Ohya K, and Fukushi H: Genomic sequence of an infectious bursal disease virus isolate from Zambia classical attenuated segment B reassortment in nature with existing very virulent segment A. *Arch Virol*, 158, 685-689, 2013.

## 学会発表

- 1) Chu Thi Thanh Huong, 村野多可子, 宇野有紀子, 小川恵実香, 笛吹達史, 伊藤壽啓, 山口剛士: 鳥インフルエンザウイルスおよびニューカッスル病ウイルスのワクモ (*Dermanysus gallinae*) 体内における感染価の経時的変化. 第27回中国四国ウイルス研究会, 2012年6月, 米子市.
- 2) 永井泰子, 伊藤啓史, 笛吹達史, 尾崎弘一, 曾田公輔, 市川利奈, 石戸里幸, 村瀬 敏之, 山口剛士, 伊藤壽啓: ナベヅル由来H5N1亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの遺伝子性状解析. 第27回中国四国ウイルス研究会, 2012年6月, 米子市.
- 3) 笛吹達史, 加藤郁人, 宇野有紀子, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 山口剛士: 脳継代により病原性を獲得したウズラ由来H7N6亜型鳥インフルエンザウイルスのアミノ酸変異の解析. 第27回中国四国ウイルス研究会, 2012年6月, 米子市.
- 4) 傍島慧美, 寺崎香織, 笛吹達史, 大屋賢司, 福士秀人, 山口剛士: 伝染性ファブリキウス囊病ウイルスVP5の細胞膜移行に関する責任領域決定の試み. 第154回日本獣医学会学術集会, 2012年9月, 盛岡市.
- 5) 笛吹達史, 加藤郁人, 宇野有紀子, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 山口剛士: ウズラ由来H7N6亜型鳥インフルエンザウイルスのウズラ及び鶏脳継代によるアミノ酸変異. 第154回日本獣医学会学術集会, 2012年9月, 盛岡市.
- 6) Chu Thi Thanh Huong, 村野多可子, 宇野有紀子, 小川恵実香, 笛吹達史, 伊藤壽啓, 山口剛士: *Dermanysus gallinae* (ワクモ) 体内における鳥インフルエンザウイルス感染価の経時的変化. 第154回日本獣医学会学術集会, 2012年9月, 盛岡市.
- 7) 小川恵実香, 村野多可子, 宇野有紀子, Chu Thi Thanh Huong, 笛吹達史, 山口剛士: *Dermanysus gallinae* (ワクモ) 寄生に対する鶏の免疫応答. 第154回日本獣医学会学術集会, 2012年9月, 盛岡市.
- 8) 曾田公輔, 笛吹達史, 宇野有紀子, 永井泰子, 尾崎弘一, 山本直樹, 岡松正敏, 迫田義博, 磯田典和, 高田礼人, 伊藤啓史, 山口剛士, 伊藤壽啓: 2010-11シーズン



に国内の野鳥斃死体から分離されたH5N1高病原性鳥インフルエンザウイルスのカモ科鳥類に対する病原性と伝播能の解析. 第60回日本ウイルス学会学術集会, 2012年11月, 大阪市.

9) 宇野有紀子, 笛吹達史, 曾田公輔, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 山口剛士: H5N1亜型高病原性鳥インフルエンザウイルス感染におけるウズラの病態とサイトカイン応答. 第60回日本ウイルス学会学術集会, 2012年11月, 大阪市.

10) 宇野有紀子, 笛吹達史, 曾田公輔, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 山口剛士: H5N1亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスのウズラ及び鶏に対する感染性の比較検討. 第155回日本獣医学会学術集会, 2013年3月, 東京都文京区.

11) 小川恵実香, 村野多可子, Chu Thi Thanh Huong, 西本鉄平, 宇野有紀子, 笛吹達史, 山口剛士: ワクモ *Dermanyssus gallinae* 寄生鶏特異抗体のELISAによる検出. 第155回日本獣医学会学術集会, 2013年3月, 東京都文京区.

12) 西本鉄平, 村野多可子, 小川恵実香, 宇野有紀子, Chu Thi Thanh Huong, 笛吹達史, 山口剛士: ワクモ *Dermanyssus gallinae* 電位依存性ナトリウムチャネルの推定アミノ酸配列およびピレスロイド耐性に関与するアミノ酸変異の解明. 第155回日本獣医学会学術集会, 2013年3月, 東京都文京区.

## (2) 疾病管理学研究部門

### 著 書

1) 大槻公一: パンデミック H1N1 2009 の終焉を迎えて～ブタインフルエンザの歴史は. *インフルエンザの最新知識Q&A*, 鈴木宏, 松本慶三編, 医薬ジャーナル社, 大阪, 2012年.

### 原著論文

1) Takakuwa H, Yamashiro T, Le QM, Phuong SL, Ozaki H, Tsunekuni R, Usui T, Ito H, Morimatsu M, Tomioka Y, Yamaguchi T, Ito T, Murase T,

Ono E, and Otsuki K: Molecular epidemiology of avian influenza viruses circulating among healthy poultry flocks in farms in northern Vietnam. *Prev Vet Med*, 103, 192-200, 2012.

2) Hotta K, Takakuwa H, Le QM, Phuong SL, Murase T, Ono E, Ito T, Otsuki K, and Yamashiro T: Isolation and characterization of H6N1 and H9N2 avian influenza viruses from Ducks in Hanoi, Vietnam. *Virus Res*, 163, 448-453, 2012.

3) Sakoda Y, Ito H, Uchida Y, Okamatsu M, Yamamoto N, Soda K, Nomura N, Kuribayashi S, Shichinohe S, Sunden Y, Umemura T, Usui T, Ozaki H, Yamaguchi T, Murase T, Ito T, Saito T, Takada A, and Kida H: Reintroduction of H5N1 highly pathogenic avian influenza virus by migratory water birds, causing poultry outbreaks in the 2010-2011 winter season in Japan. *J Gen Virol*, 93(3): 541-550, 2012.

4) Muto N. A, Yoshida R, Suzuki T, Kobayashi S, Ozaki H, Fujikura D, Manzoor R, Muramatsu M, Takada A, Kimura T, and Sawa H: Inhibitory effects of an M2-specific monoclonal antibody on different strains of influenza A virus. *Jpn J Vet Res*, 60(2-3): 71-83

## 総 説

1) 大槻公一: 鳥インフルエンザ大発生. 感染拡大の可能性. ペストコントロール, 158, 4-9, 2012 年.

2) 大槻公一, 高桑弘樹, 井上瑞江, 常國良太, 藪田淑予: 赤血球凝集素に変異を加えた H5N1 亜型鳥インフルエンザウイルスがほ乳類への感染性を獲得した画期的な河岡義裕教授らの論文について —デュアルユースが懸念された事例—. *京産大先端科学技術研究所所報*, 11, 31-39, 2012 年.

3) 大槻公一, 高桑弘樹, 藪田淑予, 山岡敏之: 特集/新型インフルエンザは再びおこるか. 鳥インフルエンザの現況. *臨と研*, 89, 1676-1686, 2012 年.

## 学会発表

- 1) 永井泰子, 伊藤啓史, 笛吹達史, 尾崎弘一, 曾田公輔, 市川利奈, 石戸里幸, 村瀬敏之, 山口剛士, 伊藤壽啓: ナベヅル由来 H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの遺伝子性状解析. 第 27 回中国四国ウイルス研究会, 2012 年 6 月, 鳥取市.
- 2) 尾崎弘一, 宇賀健一郎, 梶江昭, 高田健次, 村瀬敏之: ブロイラー鶏舎環境由来の基質拡張型  $\beta$ -ラクタマーゼ (ESBL) 産生性大腸菌. 第 154 回日本獣医学会学術集会, 2012 年 9 月, 盛岡市.
- 3) 村瀬敏之, Nguyen Binh Minh, Ngo Tuan Cuong, Tran Huy Hoang, Nguyen Hoai Thu, 尾崎弘一, 山城哲: 北部ベトナムの市販肉及び食用動物糞便から分離された下痢原性大腸菌及びサルモネラの薬剤感受性. 第 154 回日本獣医学会学術集会, 2012 年 9 月, 盛岡市.
- 4) Usui T, Hotta K, Soda K, Takakuwa H, Le QM, Phuong SL, Ito H, Ozaki H, Tsunekuni R, Ono E, Murase T, Yamaguchi T, Otsuki K, Yamashiro T, and Ito T: Avian influenza virus surveillance in duck farms and live-bird markets in Northern Vietnam. Asian-Africa Research Forum on Emerging and Reemerging Infections 2012, Jan. 2012, Kobe.
- 5) Takakuwa H, Usui T, Hotta K, Le QM, Phuong SL, Tsunekuni R, Ozaki H, Ito H, Morimatsu M, Tomioka Y, Yamaguchi T, Ito T, Murase T, Ono E, Yamashiro T, and Otsuki K: Molecular epidemiology of avian influenza viruses circulating among healthy duck flocks in farms in northern Vietnam during year 2006-2010. Asian-Africa Research Forum on Emerging and Reemerging Infections 2012, Jan. 2012, Kobe.
- 6) Murase T, Nguyen BM, Ngo TC, Tran HH, Nguyen HT, and Yamashiro T: Isolation of diarrheagenic Escherichia coli and Salmonella from retail meat and food-producing animal feces in northern Vietnam. Asian-Africa Research Forum on Emerging and Reemerging Infections 2012, Jan. 2012, Kobe.

### (3)分子疫学研究部門

#### 原著論文

- 1) Nomura N, Sakoda Y, Soda K, Okamatsu M, and Kida H: An H9N2 Influenza virus vaccine prepared from a non-pathogenic isolate from a migratory duck confers protective immunity in mice against challenge with an H9N2 virus isolated from a girl in Hong Kong. *J Vet Med Sci*, 74, 441-447, 2012.
- 2) Arikata M, Itoh Y, Okamatsu M, Maeda T, Shiina T, Tanaka K, Suzuki S, Nakayama M, Sakoda Y, Ishigaki H, Takada A, Ishida H, Soda K, Pham VL, Tsuchiya H, Nakamura S, Torii R, Shimizu T, Inoko H, Ohkubo I, Kida H, and Ogasawara K: Memory immune responses against pandemic (H1N1) 2009 influenza virus induced by a whole particle vaccine in cynomolgus monkeys carrying Mafa-A1\*052:02. *Plos One*, 7(5), e37220, 2012.
- 3) Uchida Y, Watanabe C, Takemae N, Hayashi T, Oka T, Ito T, and Saito T: Identification of host genes linked with the survivability of chickens infected with recombinant viruses possessing H5N1 surface antigens from a highly pathogenic avian influenza virus. *J Virol*, 86(5), 2686-2695, 2012.
- 4) Hotta K, Takakuwa H, Le QM, Phuong SL, Murase T, Ono E, Ito T, Otsuki K, and Yamashiro T: Isolation and characterization of H6N1 and H9N2 avian influenza viruses from Ducks in Hanoi, Vietnam. *Virus Res*, 163(2), 448-453, 2012.
- 5) Uno Y, Usui T, Fujimoto Y, Ito T, and Yamaguchi T: Quantification of interferon, interleukin, and Toll-like receptor 7 mRNA in quail splenocytes using real-time PCR. *Poult Sci*, 91(10), 2496-2501, 2012.
- 6) Kajihara M, Sakoda Y, Soda K, Minari K, Okamatsu M, Takada A, and Kida H: The PB2, PA, HA, NP, and NS genes of highly pathogenic avian influenza virus A/whooper swan/Mongolia/3/2005 (H5N1) are responsible for pathogenicity in ducks. *Virology*, 43, 2013.

## 総 説

- 1) 伊藤壽啓: 緒言. JVM 特集・高病原性鳥インフルエンザ流行. 獣医畜新報, 65(5), 328, 2012 年.
- 2) 伊藤壽啓: 高病原性鳥インフルエンザの野鳥および野生動物での発生状況. JVM 特集・高病原性鳥インフルエンザ流行. 獣医畜新報, 65(5), 347-351, 2012 年.

## 学会発表

- 1) 曾田公輔, 笛吹達史, 宇野有紀子, 永井泰子, 尾崎弘一, 山本直樹, 岡松正敏, 迫田義博, 磯田典和, 高田礼人, 伊藤啓史, 山口剛士, 伊藤壽啓: 2010-11 シーズンに国内の野鳥斃死体から分離された H5N1 高病原性鳥インフルエンザウイルスのカモ科鳥類に対する病原性と伝播能の解析. 第 60 回日本ウイルス学会学術集会, 2012 年 11 月, 大阪市.
- 2) 山本直樹, 迫田義博, 曾田公輔, 岡松正敏, 喜田 宏: 非病原性鳥インフルエンザウイルス A/duck/Hokkaido/Vac-1/2004 (H5N1) のニワトリに対する病原性獲得に与るウイルス因子の同定. 第 60 回日本ウイルス学会学術集会, 2012 年 11 月, 大阪市.
- 3) 宇野有紀子, 笛吹達史, 曾田公輔, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 山口剛士: H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルス感染におけるウズラの病態とサイトカイン応答. 第 60 回日本ウイルス学会学術集会, 2012 年 11 月, 大阪市.
- 4) Soda K, Hotta K, Nagai Y, Usui T, Takakuwa H, Le QM, Phuong SL, Ito H, Ozaki H, Ono E, Murase T, Yamaguchi T, Otsuki K, Yamashiro T, and Ito T: Avian influenza virus surveillance in duck farms and wet markets in Northern Vietnam. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections 2013, Jan. 2013. Tokyo.
- 5) 曾田公輔, 笛吹達史, 宇野有紀子, 永井泰子, 尾崎弘一, 伊藤啓史, 山本直樹, 田村友和, 日尾野隆大, 岡松正敏, 迫田義博, 高田礼人, 村瀬敏之, 山口剛士, 伊藤壽啓: 2010-11 シーズンに国内の野鳥斃死体から分離された H5N1 高病原性

鳥インフルエンザウイルスのカモ科およびサギ科鳥類に対する病原性と伝播能の解析.  
第 155 回日本獣医学会学術集会, 2013 年 3 月, 東京都.

6) 宇野有紀子, 笛吹達史, 曾田公輔, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 山口剛士: H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスのウズラ及び鶏に対する感染性の比較検討.  
第 155 回日本獣医学会学術集会, 2013 年 3 月, 東京都.

#### 4. 学術賞等の受賞

1) 曾田公輔: 第 155 回日本獣医学会学術集会大会長賞 2013 年 3 月 29 日

#### 5. その他の研究活動

##### (1) 国際共同研究・共同調査

- 1) 学術交流協定締結(大韓民国国立動物検疫科学院) 平成 16 年～現在
- 2) 学術交流協定締結(大韓民国建国大学) 平成 17 年～現在
- 3) 科学技術振興費「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」インフルエンザコンソーシアム「ベトナムにおけるワクチン導入後の H5N1 高病原性鳥インフルエンザウイルスの抗原変異と流行動態に関する研究」, ベトナム社会主義共和国, 平成 22 年～現在

#### 6. 広報活動

##### (1) 講演等

- 1) 大槻公一: 世界は鳥インフルエンザの強毒性変異にどう立ち向かうのか. 平成 24 年度科学研究費補助金(基盤(B)一般研究)新型インフルエンザ対策セミナー, 2012 年 5 月 7 日, 東京都文京区.
- 2) 大槻公一: 鳥インフルエンザウイルスから新型インフルエンザウイルスが生まれるか? 滋賀県薬剤師会新型インフルエンザ及び大規模災害対策研修会, 2012 年 5 月 13 日, 草津市.

- 3) 大槻公一: 人獣共通感染症の先回り予防策. 長崎大学国際連携研究戦略本部第2回バイオセキュリティワークショップ「バイオディフィエンスに資する日米科学技術協力の新たな可能性」, 2012年7月21日, 東京都港区.
- 4) 大槻公一: 人の生活と動物の病気. 京都府知って安心! 家畜の健康講演会, 2012年9月17日, 京都市.
- 5) 大槻公一: ヒトへの脅威となるおそれのある動物由来のインフルエンザウイルスの現状について. 愛知県新型インフルエンザ対策研修会, 2012年10月24日, 名古屋市.
- 6) 大槻公一: 最近の動物インフルエンザについてー鳥インフルエンザを中心にー. 平成24年度全国食肉衛生検査所協議会近畿ブロック会議及び技術研修会, 2012年10月31日, 羽曳野市.
- 7) 伊藤壽啓: 高病原性鳥インフルエンザの国内発生と野鳥との関わり. 平成24年度兵庫県養鶏講習会, 2012年10月, 姫路市.
- 8) 伊藤壽啓: 高病原性鳥インフルエンザの国内発生と野鳥との関わり. 宮崎大学第2回鳥インフルエンザシンポジウム, 2012年10月, 宮崎市.
- 9) 村瀬敏之: ブロイラー及び採卵鶏における大腸菌症. 三重県畜産技術連盟平成24年度鶏疾病技術検討会, 2012年10月, 津市.
- 10) 大槻公一: 鳥インフルエンザの最近の話題. 平成24年度日本ペストコントロール協会感染症指導者講習会, 2012年11月13日, 東京都墨田区.
- 11) 大槻公一: 最近の鳥インフルエンザの現状. 大阪府畜産会自衛防疫研修会, 2012年11月14日, 大阪市.
- 12) 大槻公一: 最近の鳥インフルエンザの状況. 愛知県ペストコントロール協会研修会, 2012年11月15日, 名古屋市.
- 13) 大槻公一: 最近の鳥インフルエンザの発生について. 京都府高病原性鳥インフ

ルエンザ初動訓練講演会, 2012年11月27日, 京都市.

14) Ito T: Outbreaks of highly pathogenic avian influenza in 2010-2011 in Japan - Possible route of entry for highly pathogenic avian influenza virus into Japan through wild bird migration. Japan, USA and Taiwan Joint Conference on Avian Influenza Prevention and Control, Nov. 2012, New Taipei City, Taiwan.

15) 村瀬敏之: 採卵鶏及びブロイラー由来大腸菌の病原性及び薬剤感受性. 第267回鶏病事例検討会, 鶏病事例検討会運営委員会, 2012年12月21日, つくば市.

16) 大槻公一: 鳥インフルエンザについて. 岐阜県養鶏協会設立40周年記念事業講演会, 2013年1月23日, 岐阜市.

17) 曾田公輔: H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスのサギ科鳥類に対する病原性と伝播能の解析. Second Negative Strand Virus-Japan Symposium, 2013年1月, 沖縄市.

18) 曾田公輔: H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの野鳥に対する病原性, 平成24年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会, 2013年2月, 大阪市.

## (2)新聞雑誌等掲載

H24. 5.20 鳥インフル解説 鳥大アカデミー 「鳥インフルエンザウイルスと野鳥」  
(鳥取大学農学部山口剛士教授) 読売

H24. 5.22 サイエンスアカデミーへのいざない 高病原性鳥インフルと野鳥  
(山口剛士鳥取大学農学部教授) 日本海

H25. 1.16 大山大で栽培のハーブ「エキナセア」に抗インフル効果 鳥大が分析  
山陰中央, 日本海, 朝日



## 7. 社会貢献

- 伊藤壽啓: 平成 9 年度～現在 鳥取県公衆衛生協会理事
- 伊藤壽啓: 平成 19 年度～現在 農林水産省食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会家きん疾病小委員会委員長
- 伊藤壽啓: 平成 20 年度～現在 鳥取県防災危機管理委員会委員
- 伊藤壽啓: 平成 20 年度～現在 環境省第3回鳥インフルエンザ等野鳥に係る専門家グループ会合メンバー
- 伊藤壽啓: 平成 20 年度～現在 農林水産省委託プロジェクト「鳥インフルエンザ、BSE・口蹄疫等の効率的なリスク低減技術の開発」研究推進会議外部専門家
- 伊藤壽啓: 平成 21 年度～現在 農林水産省高病原性鳥インフルエンザ疫学調査チーム座長
- 伊藤壽啓: 平成 21 年度～現在 とっとり防災危機管理研究会メンバー
- 伊藤壽啓: 平成 21 年度～現在 鳥取県新型インフルエンザ対策本部会議顧問
- 伊藤壽啓: 平成 21 年度～現在 鳥取県環境衛生研究所研究評価委員
- 伊藤壽啓: 平成 22 年度～現在 鳥取県食の安全推進委員会委員長
- 伊藤壽啓: 平成 22 年度～現在 農林水産省動物用インフルエンザワクチン国内製造用株選定委員会委員
- 伊藤壽啓: 平成 23 年度～現在 農林水産省食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会臨時委員
- 山口剛士: 平成 20 年度～現在 鳥取県畜産技術業績発表会審査員
- 山口剛士: 平成 23 年度～現在 日本獣医師会野生動物対策検討委員会副委員長
- 山口剛士: 平成 23 年度～現在 鶏病研究会専門委員会委員
- 山口剛士: 平成 23 年度～現在 日本野生動物医学会感染症対策検討委員
- 山口剛士: 平成 23 年度～現在 鳥取県鳥インフルエンザ対策防災会議

山口剛士：平成 23 年度～現在 環境省鳥インフルエンザ専門家グループ会合

村瀬敏之：平成 19 年度～現在 鶏病研究会専門委員

村瀬敏之：平成 20 年度～現在 鳥取県公衆衛生協会理事

村瀬敏之：平成 21 年度～現在 日本獣医学雑誌編集委員

大槻公一：平成 3 年度～現在 日本獣医学会 評議員, 編集委員長

大槻公一：平成 4 年度～現在 鳥取県食鳥肉衛生協会理事

大槻公一：平成 5 年度～現在 世界鶏病学会(World Veterinary Poultry Association) International Advisory Board, 日本支部長

大槻公一：平成 9 年度～現在 鶏病研究会 理事

大槻公一：平成 16 年度～現在 京都府高病原性鳥インフルエンザ対策専門家会議委員

大槻公一：平成 18 年度～現在 京都府・京都市新型インフルエンザ対策専門家会議委員

大槻公一：平成 18 年度～現在 京都府広域防疫対策センターに係る専門家チーム委員

大槻公一：平成 23 年度～現在 近畿ブロック家畜病性鑑定ネットワーク協議会委員

大槻公一：平成 24 年度 農林水産省 農林水産業・食品産業科学研究推進事業(実用技術開発ステージ) 審査専門評価委員

鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター：平成 20 年度～現在 環境省野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る検査

---

鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター年報 第6号  
(2012年版)

発 行 日 平成25年4月1日

編 集 ・ 発 行 国立大学法人鳥取大学農学部附属  
鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター  
〒680-8553  
鳥取市湖山町南4丁目101番地  
(代表者) センター長 伊藤 壽啓  
Tel. & Fax. 0857-31-5437

印 刷 中央印刷株式会社  
〒689-1121  
鳥取市南栄町34番地  
Tel. 0857-53-2221 Fax. 0857-53-2201

---